

〈学校教育（基礎教育）分野の点検・評価〉

学校教育（基礎教育）分野については、大きく学校教育課・指導室事業と給食センター事業に分けて点検・評価しました。

I 学校教育課・指導室事業

学校教育課・指導室事業については、次に掲げる項目について、目標・取組概要、自己評価、今後の課題と対応の方向性を項目別にまとめるとともに、市民の方々等から頂いた主な意見を掲載しました。

1 教育環境の整備・充実

児童生徒が快適な学校環境のもとで学習できるようにするとともに、登下校時の安全確保や不審者侵入に対する対応等、学校の危機管理体制の確立を図ります。

項 目	1 高機能かつ多機能で変化に対応し得る弾力的な施設環境の整備
目標・取組概要	教育内容・教育方法などに対応した多様な学習内容・学習形態やコンピュータその他の高度な教育機器の利用などを可能とする多様な学習環境を確保します。
自己評価	① 平成28年度は、第2期教育振興基本計画で目標とされている児童生徒3.6人当たり1台以上のタブレット端末を配備し、高機能かつ多様な学習環境を確保することができました。 ② ①のタブレット端末を有効に活用するため、ICT支援員を配置するとともに、小中学校に教科書準拠の指導用デジタル教科書を活用し、分かり易い授業による学習意欲と確かな学力の向上を目指した情報教育環境の充実を図ることができました。
今後の課題と対応の方向性	① 今後、校務の情報化（校務支援システム導入）を図ると同時に、厳しい財政状況下、全ての事業において経費削減に努める必要があります。 ② 整備した情報教育機器を有効に利活用するための方策を講じていく必要があります。

項 目	2 健康的かつ安全で豊かな施設環境の確保
目標・取組概要	児童生徒の学習及び生活の場として良好な環境を確保するとともに、障がいのある児童生徒にも安全でゆとりを持って学校生活を送れるよう配慮した施設整備に努めます。
自己評価	① 平成26, 27, 28年度の3箇年で小学校6校, 中学校3校のトイレ洋式化工事を実施しており、平成28年度は大井沢小学校及びけやき台中学校のトイレ改修を行い、児童生徒の学校生活における快適な環境をつくることができました。 ② 平成27年度に着手した愛宕中学校校舎の大規模改修工事が平成28年度に完了し、生徒の学習及び生活のための空間として、

	<p>健康と安全を十分確保した快適な学校施設環境の確保を図ることができました。</p> <p>③ 建築後30年以上経過し老朽化した郷州小学校の屋内運動場（体育館）の大規模改修工事を平成28年度に実施し、快適な学校施設環境の確保を図ることができました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>今後の課題と対応の方向性</p>	<p>① 小中学校のトイレ改修事業は、平成28年度に13校全ての学校の便器の洋式化と床の乾式化が完了しましたが、屋内運動場（体育館）等のトイレも順次改修していく必要があります。</p> <p>② 松並土地区画整理事業地内で戸建て及び集合住宅等の販売が計画され、住宅地への入居に伴って児童生徒の増加が見込まれるため、通学対象の学校における教室不足等への対応を引き続き行う必要があります。</p> <p>③ 校舎や屋内運動場（体育館）等の学校施設については、築30年以上が経過し老朽化している施設があり、計画的に大規模改修が必要ですが、今後、財政計画や実状に基づいた改修計画の見直しが必要です。</p>

<p>項目</p>	<p>3 通学路の安全点検と危機管理体制の強化</p>
<p>目標・取組概要</p>	<p>安全で安定した教育環境の確保のため、通学路の安全点検、災害時引渡し訓練等危機管理体制の強化を図ります。</p>
<p>自己評価</p>	<p>① 通学路の安全点検は平成24年度から毎年実施しており、警察署、道路関係者及び学校関係者と連携した現地での安全点検と点検結果を基に、道路の路面標示の書き直し、通学補助員配置見直し等対策を行うことで登下校時の安全確保が図られました。</p> <p>② 9月1日に災害時の小中学校児童生徒引渡し訓練を実施し、危機管理体制の強化を図ることができました。</p>
<p>今後の課題と対応の方向性</p>	<p>① 児童生徒の登下校時の交通事故防止のために、警察や道路関係者及び学校・教育委員会が連携を密にして安全対策を講じるとともに、児童生徒への交通安全指導の強化を図る必要があります。</p> <p>② 不審者情報が度々寄せられている状況にあります。引き続き、保護者や地域住民の協力を得ながら、登下校時の防犯対策を講じていく必要があります。</p>

〈外部の方々から頂いた意見〉

- * トイレ改修事業については、工事が完了した各学校の先生、児童生徒及び保護者から大変喜ばれています。
- * 3.6人に1台以上のタブレット端末を導入したことにより、調べ学習や発表などに有効に活用することができ、児童生徒の学習意欲も高まったとの声を先生方から頂いています。
- * 児童生徒の登下校時の安全確保のため、通学路となっている道路で、交通事故発生の危険度が高い交差点への信号機の設置及び道路の拡幅や歩道の整備が求められています。

2 学校教育プラン

新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指し、以下の学校教育プランを推進します。

〔1〕 ステップアッププラン（確かな学力の育成）

児童生徒に確かな学力を身に付けさせることは、学校教育にとって最重要課題です。確かな学力の育成のためには、児童生徒が自ら学習する喜びを実感して、学び続けることが大切です。

学校は、学習指導要領に基づき、基礎的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、地域や子どもの実態に応じた特色ある学校づくりを積極的に進めます。

項 目	1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と指導法の工夫改善
目標・取組概要	① 小学校高学年による教科担任制を推進します。 ② 基礎的・基本的な知識・技能の育成では、体験的な理解や繰り返し学習を重視します。 ③ 小学校1・2年生と中学校1年生を対象に学習支援ティーチャーを配置します。 ④ 少人数加配教員及び学習支援ティーチャー・社会人チームティーチング等の積極的な活用を図ります。 ⑤ 市基礎学力統一テストの実施（小学校1・2年生）や学校改善プランを活用し、授業改善に努めます。 ⑥ 定着度を数値目標化し、説明責任を果たすことができるようにします。 ⑦ 学校行事の厳選を図り、計画的に授業時間が確保できるようにします。 ⑧ 家庭学習のてびきを活用し、家庭学習の定着と習慣化を図ります。
自己評価	① 確かな学力の定着については、「茨城県学力診断のためのテスト」の結果を見ると、市全体としては、小学校3年生から中学校

3年生まで全ての学年が県平均を上回り、十分に定着してきていると思われま。平成27年度小学校6年生は、県平均を12.1ポイント上回り、翌平成28年度中学1年生の状況は県平均と比較して15.6ポイント上回っています。もちろん個人差があるので、身に付いていない児童生徒に対しては、一人ひとりの課題を明確にして個別に指導していく必要があります。

※ 県学力診断テスト正答率の推移（数字は各教科の正答率を合計して記入）

区 分			H 2 6	H 2 7	H 2 8
県平均	小学校	3年	315.5	327.4	317.5
		4年	314.6	320.2	315.4
		5年	302.6	298.2	290.1
		6年	315.5	304.5	308.9
	中学校	1年	361.3	348.9	336.6
		2年	333.2	329.4	319.9
		3年	300.8	327.8	339.7

注) 小学校は4教科、中学校は5教科で実施

- ② 守谷小学校、郷州小学校に理科専任教員を配置し、専門的な立場からの指導により児童の理科への関心が高まりました。
- ③ 小学校1・2年生を対象に市基礎学力統一テストを実施し、児童の実態を把握しました。基本的な知識・技能はおおむね定着しています。目標点数に到達しない児童には、昼休みや放課後を利用して繰り返し指導を行うことが大変有効でした。
- ④ 平成25年度に配置基準を拡充（小1で26人以上）した学習支援ティーチャーを小学校に34名、中学校に7名配置し、児童生徒の生活習慣や学習習慣の確立と学力向上を図ることができました。

【学習支援ティーチャー配置校一覧】

小学校8校：大井沢小，大野小，高野小，守谷小，黒内小
御所ヶ丘小，松前台小，松ヶ丘小

中学校3校：守谷中，愛宕中，御所ヶ丘中

- ⑤ 小中一貫教育を推進していく中で、日常化と具体化をキーワードにして取り組んできました。中学校区ごとに、学校のグランドデザインを一部統一し、中学校区ごとの課題を解決するために、日常的な教員の小小，小中連携による「協働の授業づくり」，より具体化した授業改善に取り組んできました。各校において有効な手立てを市内の小中学校で共有し，実践してきました。

<p>今後の課題と対応の方向性</p>	<p>① 「茨城県学力診断のためのテスト」の結果は、市全体としては良好でした。反面、個人差への対応も課題となりました。各学校では、結果を十分に分析し、教育課程の編成を工夫し、放課後の時間を作ったり長期休業を利用したりして、個に対応するための補充学習を行っていきます。</p> <p>② 基礎的・基本的な知識、技能の確実な定着のためにも、発達段階に応じた学習スキルの定着や家庭学習の習慣化が不可欠です。「学びのプラン」と「家庭学習のてびき」の有効活用を継続し、生活・学習スキルの定着を図っていきます。</p>
---------------------	---

<p>項目</p>	<p>2 思考力，判断力，表現力の育成と学習意欲の向上</p>
<p>目標・取組概要</p>	<p>① 興味・関心を高める学習素材の開発やICTを活用した授業改善を図ります。</p> <p>② 習得した知識・技能を活用する学習活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育みます。</p>
<p>自己評価</p>	<p>平成28年度は、市の指定を受けた2校が研究発表会を行い、2校ともに大きな成果を上げることができました。</p> <p>① 大野小学校では、「思考力・表現力を高める算数科学習の在り方～考えを伝え合う活動を通して～」をテーマに、児童が、言葉、式、図、グラフ、表などを使い、考えを伝え合う力の育成を図りました。</p> <div data-bbox="541 1196 879 1447" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="967 1196 1305 1447" data-label="Image"> </div> <p>② 愛宕中学校では、『愛宕スタイル』での学び合いを通じた学力向上を目指す指導の在り方」をテーマに、「愛宕スタイル」の学び合いを確立し、生徒の学力の向上に取り組みました。2校とも、小小、小中のつながりを意識し、中学校区の課題を意識した授業が行われていました。</p> <div data-bbox="553 1720 898 1975" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="983 1720 1327 1975" data-label="Image"> </div>

今後の課題と対応の方向性	<p>① 大野小学校での研究では、学習課題を工夫したり、課題解決をペア学習にしたりすることで、一人ひとりが自分の考えを持ち、全体で共有する時間を活発にできるという成果が見られました。今回は、算数に特化して研究が推進されましたが、授業や他の教科に生かしていきます。</p> <p>② 愛宕中学校の研究では、愛宕中学校区において「学び合い」を広め、小学校2校においても「学び合い」を意識した授業が行われるようになりました。小学校における学び合いが、「愛宕スタイル」につながるよう一貫教育における系統性を図る必要があります。</p>
---------------------	---

項目	3 個に応じた教育の積極的な推進
目標・取組概要	<p>① 定着度に応じて、発展的な学習や補充的な学習を進めます。</p> <p>② 少人数やチームティーチングによる授業、習熟度別の授業等を積極的に展開し、個に応じた教育の充実を図ります。</p>
自己評価	<p>各学校において、少人数加配教員（小学校9人，中学校7人）や学習支援ティーチャーを積極的に活用し、少人数やTTによる授業、習熟度や課題別の授業等を展開しながら発展的な学習や補充的な学習を進めるなど、個に応じた指導の充実が図られました。</p>
今後の課題と対応の方向性	<p>学習支援ティーチャーの配置により、学習習慣の確立を含めたきめ細かな個への指導の充実が図られましたが、今後も質の高い学習支援ティーチャーの確保に努めていく必要があります。</p>

項目	4 特別支援教育の充実
目標・取組概要	<p>① 校内支援体制を確立し、障がいのある児童生徒に対して一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別の支援計画・指導計画を作成し、指導に当たります。</p> <p>② LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥多動性障がい）等の児童生徒への特別支援学級の弾力的運用を推進します。</p>
自己評価	<p>特別支援教育については、特別支援学級担当者会議や教育支援会議等を通して学校間の連携を図ることができました。</p> <p>① 御所ヶ丘中学校区において、インクルーシブ教育システム構築のために域内の教育資源の組合せにより、域内の全ての子ども一人ひとりの教育的ニーズに応える仕組みを構築しました。</p> <p>② LD、ADHD等の児童については、介護補助員（小学校4人，中学校1人）等を配置し、普通学級と特別支援学級との相互学習を行うなど、弾力的な運用をしました。</p> <p style="text-align: center;">【配置校一覧】</p> <p>小学校8校：大井沢小，高野小，守谷小，黒内小，御所ヶ丘小，</p>

	<p>郷州小，松前台小，松ヶ丘小</p> <p>中学校2校：愛宕中，けやき台中</p> <p>③ 個別の教育支援計画・指導計画を市内統一形式にし，異校間（小，小中，中中）の引継ぎが同一歩調で行えるようにしました。</p>
今後の課題と対応の方向性	<p>① 特別な支援が必要な幼児，児童生徒に対し，障がいの程度等を検査し，適切な支援のあり方を保護者や学校等にアドバイスできる教育相談員を配置していることで，幼稚園・保育所・療育教室と小学校との円滑な接続が図られましたが，今後はそれらの児童生徒に対して学校を訪問し，現状を把握していきます。</p> <p>② インクルーシブ教育については，今後，保・幼・小・中・高等学校を通して一貫して支援することが大切になります。そのために，学校長が十分なリーダーシップを発揮し，教職員の専門性向上のための研修体制等を充実させること，域内の教育資源との連絡調整をする役割を果たす特別支援教育コーディネーターを育成すること，域内の教育資源との継続した連携体制の構築及び効果的な事例を蓄積・共有することが必要です。</p>

項目	5 読書活動の積極的推進																											
目標・取組概要	<p>① 朝の読書タイムやブックトーク等，本に親しむ時間を提供します。</p> <p>② 「みんなに進めたい一冊の本」事業への積極的参加を行います。</p> <p>③ 「守谷市子ども読書活動推進計画」を活用し，読書活動の推進を図ります。</p>																											
自己評価	<p>「みんなにすすめたい一冊の本」事業への積極的な参加を促し，読書の習慣化を図りました。小学校で50冊以上読んだ児童の割合は84.2%で，中学校で30冊以上読んだ割合は11.3%でした。</p> <p>※ 「みんなにすすめたい一冊の本」推進事業での読書割合の推移 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">小学校</th> <th colspan="3">中学校</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県平均</td> <td>69.2</td> <td>71.4</td> <td>74.0</td> <td>16.2</td> <td>18.5</td> <td>19.6</td> </tr> <tr> <td>守谷市</td> <td>71.1</td> <td>88.5</td> <td>84.2</td> <td>10.8</td> <td>12.1</td> <td>11.3</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	小学校			中学校			H26	H27	H28	H26	H27	H28	県平均	69.2	71.4	74.0	16.2	18.5	19.6	守谷市	71.1	88.5	84.2	10.8	12.1	11.3
区 分	小学校			中学校																								
	H26	H27	H28	H26	H27	H28																						
県平均	69.2	71.4	74.0	16.2	18.5	19.6																						
守谷市	71.1	88.5	84.2	10.8	12.1	11.3																						
今後の課題と対応の方向性	<p>「みんなにすすめたい一冊の本」事業では，小学校では県の平均を上回りましたが，中学校ではまだ県の平均を下回っているため，中学校での読書意欲の向上に向けた取組を，司書教諭と連携して推進していきます。</p>																											

〈外部の方々から頂いた意見〉

1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と指導法の工夫改善について

- * 授業の形態が工夫され、児童が意欲的に取り組んでいる。
- * どの学級も、学習規律がしっかり身に付いており、落ち着いて学習している児童が多い。
- * 保護者の学力向上に関する関心は高い。各項目を見ても、先生方は熱心に取り組んでいることが分かる。教育を学校任せにするのではなく、保護者も関心をもって取り組むべきである。
- * 全学年、概ね目標を達成しているようだが、目標値に達しない児童へは、引き続き個別指導を充実してほしい。
- * 学習面において自分の不得意教科を克服できるようにするには、どう進めたらよいかなど家族にも相談するようになった。
- * 先生方が分かりやすい授業を心掛けている。
- * 学習における習慣がよく身に付いている。
- * ドリル等の繰り返しを通して、基礎的・基本的な内容の定着を図り、読書や遊びをバランスよく組み入れていくことが大切だと思う。そのためには、人に言われてやるのではなく、自分から進んで様々なことに取り組む子を育てていきたい。
- * 漢字ドリル練習で、ノートに写すだけでは覚えられない。もっと子供がやる気の出るような家庭学習を出してほしい。
- * 家庭学習も大切だが、宿題を多めに出して、勉強させることも必要なのではないか。
- * 生徒の学力向上には、教師の力量が問われことは勿論だが、「50分の授業は生徒指導である」という考えを強くもった教員集団でありたいという考えは大賛成である。
- * 学力向上は人間教育の中の一部にすぎない。私の現役の頃は、授業の3分の1が世相を盛り込んだ人間教育であった。
- * 家庭学習の取組は長い目で見て、褒めて自主性を伸ばしてほしい。
- * 「学校改善アンケート」に保護者は、学力を向上させたいという思いで記入している。その思いを汲んで指導改善に努めてほしい。学期末テストや学年末テストの出題については、十分検討する必要がある。また、授業の進度は市内で確認する機会があると良い。
- * 家庭学習のノートや日記などに教師のコメントが書かれており、保護者としては感謝している。
- * ユニバーサルデザインを意識した授業を継続して、今後も分かる授業の展開に努めてほしい。

2 思考力、判断力、表現力の育成と学習意欲の向上について

- * 基礎学力を付けるのと同時に、その活用能力も身に付けさせてほしい。
- * 子どもが進んで自分の意見を発表している。
- * ノート展を通して、子供たちが自ら良いノートを作ろうとしている点がすばらしい。ドリル学習のその先、自分で考えて工夫する学習・主体的に取り組む態度を大切にしたい。
- * 「よく考える子」を育ててほしい。社会に出ると、数々の問題に直面する。それら

は多くの場合、教科書に載っている問題でも、学校のテストのように正解があらかじめ準備されているわけでもない。問題を分かりやすく整理したり、困難を予想して目標を実現したりする力を、ぜひ育ててほしい。

- * 学び合う授業で、どの児童も自分の意見を言えると良い。
- * 課題の「書く力、話す力」への取組を推進し、子どものさらなるスキルアップを図ってほしい。進学するにつれ、自己アピールの機会が増える。一貫教育と同調させながら主体的・対話的に長けた人間の育成をしてほしい。書く力が備われば、発表の際に頭の中で筋道立てることができる。

3 個に応じた教育の積極的な推進について

- * 明確な指導目標をもって教育活動に取り組んでいる点が良い。授業時間が増えるという記事があったが、学習についていけない子が出ないよう個に応じた指導を大事にしてほしい。
- * 学力分析シートの継続活用が学力向上につながっていると考える。高い分析力・対応力が授業向上に結び付いている。今後もきめ細かい一人ひとりの個性に対応できる取組を望む。
- * 実力アップサマー学習会や部活学習会で学習のリズムが芽生えと考える。
- * 数学の授業で1クラスを2つに分けて授業することはとてもよい。できる子どもできない子ども伸びる。できれば、もっと早く取り組んでほしかった。
- * 補充学習は十分にしてほしい。各教科でしっかり見て、早い段階で手立てを講じることが必要である。
- * 授業参観をしてみて、1学級に複数の教員が入って授業している様子が伺え、個別対応ができていると思う。
- * 昼休みや放課後に行っている学習相談はありがたい。英検や漢検に向けての学習でも指導をしてほしい。

5 読書活動の積極的推進

- * 読書活動の推進は家庭でも行うべき。学校任せにするのではなく家庭教育力の向上が大切である。
- * 読書は大切。幅広い分野の本を読むようになってほしい。
- * 読み聞かせのお母さん方も、自ら図書館に通い本を選ぶなどして、とても喜んで協力をしている。
- * 読解力を身に付けるには読書が大切である。読書は学習の原点である。達成感を味わわせ、自己肯定感を高めることは人間形成・いじめ解消にもつながるいい取組である。
- * 1日の始まりを静かな環境で落ち着いて迎えられるのは、豊かな情操教育につながっている。

〔2〕 ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

近年，規範意識や道徳性の低下が叫ばれています。こうした問題の解決のため，他人を思いやる心や倫理観，責任感等の育成を図り，心豊かな児童生徒を育てます。

項目	1 基本的行動様式の徹底指導と基本的生活習慣の確立
目標・取組概要	① 児童生徒の生活全体を見直し，全教育活動を通して「規範意識」を育て，基本的行動様式の確立を図ります。 ② 「早寝，早起き，朝ごはん」運動を推進し，望ましい基本的生活習慣の定着と生活リズムの向上を図ります。 ③ エンゼルサポートプランを活用し，発達段階に応じた指導を行います。 ④ 相手を思いやることの大切さに気付き，実践へとつなげていくことができるよう，冊子『わたしたちの守谷しぐさ』（守谷市で独自に作成したもの）を活用した特別活動の充実を図ります。
自己評価	① 基本的生活習慣の基盤となる「あいさつ」は，各学校において児童生徒と教員が毎朝校門や昇降口で行うあいさつ運動，保護者や地域の方々とのあいさつ運動週間等の取組等を通して定着化を図ることができました。  ② 小学校1・2年生に学習支援ティーチャーを配置したことで，きめ細かな支援が可能になり，基本的生活習慣や生活リズムの向上を図ることができました。 ③ 「守谷しぐさ推進委員会」において，内容の検討や実践の方向性等について協議を重ね，部分改訂した冊子を配付しました。各校で学級活動，全校集会，学校行事等で創意工夫ある実践を重ねることができました。
今後の課題と対応の方向性	① あいさつについては，守谷市が進める保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」に伴い，中学生が母校の小学校に出向いての小中合同のあいさつ運動や，11月に行った小中高校合同のあいさつ運動が大変効果的でしたので，今後も全ての中学校区において，このようなあいさつ運動を積極的に推進していきます。 ② 規範意識の高揚は，「守谷市いじめ問題対策連絡協議会」の中で共通認識を持ち取り組んでいきます。 ③ 学習支援ティーチャーの配置は，今後も質の高い人材の確保に努めていきます。

項目	2 道徳授業の充実と豊かな人間性の育成
目標・取組概要	<p>① 道徳の授業の改善を中心に心の教育の充実を図り、「豊かな人間性」の育成を図ります。</p> <p>② 「私たちの道徳」の趣旨を生かし、創意ある活用を進めます。</p> <p>③ 校長や外部指導者が道徳の授業に参加できるような体制づくりを進めます。</p> <p>④ 道徳の授業を保護者や地域に積極的に公開します。</p> <p>⑤ 児童生徒の発達段階に応じ、集団宿泊活動や自然体験活動（小学校）、職場体験活動（中学校）を重点的に推進し、社会性や豊かな人間性を育みます。</p>
自己評価	<p>道徳教育推進委員会では、各中学校区及び各校の道徳教育の充実を目指し、道徳の時間の授業改善に取り組んでいます。例えば、中学校区内の小学校と中学校教員が共同で授業を作り上げた提案授業を公開し、相互授業参観・協議を行うなど、指導方法のスキルアップを図っています。</p> <p>また、人権教育に関わる授業を学校区内の幼稚園、守谷高等学校で実施したり、学校公開日や授業参観日において保護者や地域の方々に道徳授業を積極的に公開したりするなど、学校と家庭、地域社会が連携した道徳教育の充実が図られてきています。</p> <p>さらに、学年便りの道徳コーナーを通して、授業の様子や子どもの考えなどを知らせたり、保護者も道徳授業に様々な形で参加していただいたりしながら、家庭と連携した心の教育を推進しています。</p>
今後の課題と対応の方向性	<p>道徳教育の充実については、道徳の教科化も見据え、引き続き各校の道徳教育推進委員が中心となって、創意工夫のある道徳授業を展開していきます。また、道徳の時間だけでなく、学校の教育活動全体を通じて豊かな心が育めるよう、多様な体験活動や中学校区ごとの交流活動の充実にも取り組みます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

項目	3 「ゼロトレランス（生徒規律指導を厳格に行う教育方法）」の考えを取り入れた生徒指導体制の構築
目標・取組概要	① 教師と児童生徒の日常的な触れ合いを基盤に「ダメなことはダメ」の指導の徹底を図ります。

	② 集団生活における自己の役割と責任を持たせる指導の徹底を図ります。
自己評価	<p>① 平成25年度から、守谷市独自の「守谷市いじめ実態調査」を毎月行い、積極的ないじめ問題の認知や援助指導、撲滅に努めています。いじめが発生した際には、関係機関も含めチームを組んで対応し早期解消に努めました。いじめの認知件数は、小学校36件、中学校35件、計71件（うち、解消57件、継続支援中14件）で、前年度と比べ、認知件数が30件増加しました。</p> <p>これは、「認知数が多い＝いじめを見逃さない目が行き届いている」という認識の下、教職員や保護者、そして児童生徒のいじめを撲滅しようとする意識が高まった表れと考えています。</p> <p>いじめ問題については、学校と教育委員会、関係機関との連携が重要です。早期解決に向け、平成27年4月に、「いじめ問題重大事態調査委員会」を条例により設置しました。</p> <p>② 市内の小中学校及び高校が合同で「Moriya きらめきフォーラム」を開催し、子どもたちが「スマイルことば」を考えました。あたたかな言葉のかけ合いによる、より良い人間関係づくりの重要性を話し合い、各小中高校及び家庭に呼びかけました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
今後の課題と対応の方向性	<p>① いじめ問題は、未然防止に向けた取組強化が必要です。いじめに関するアンケートの回数や対象（保護者）を増やし、より確かな実態把握に努めます。また、教職員からの呼びかけだけでなく、児童生徒が中心となり、いじめ撲滅のための集会やキャンペーンを行うことが重要だと考えています。</p> <p>② 児童生徒同士、児童生徒と教師間、保護者等の信頼関係づくりを土台とし、全教育活動を通して、一人ひとりの児童生徒が規律を守ることの大切さや、自己有用感をもつことができる機会を多く設定していきます。</p>
項目	4 一人ひとりを大切にし、明るい社会を築いていこうとする人権教育の推進
目標・取組概要	① 人権感覚や人権意識を育み、一人ひとりを大切にした学級経営に努めます。

	<p>② 交流活動やボランティア活動等，多様な体験活動を取り入れ，人権意識の高揚を図ります。</p> <p>③ 全教科・領域を通して，様々な人権課題を正しく理解する活動の充実を図ります。</p>
自己評価	<p>① 各校においては，「Moriya きらめきフォーラム」に向けて，いじめ防止のための集会活動やあいさつ運動，フォーラムの報告会を行いました。</p> <p>② 人権意識の啓発を図る作文や書道，俳句コンテスト等に積極的に参加し，成果を上げました。</p>
今後の課題と対応の方向性	<p>① 人権意識を高め，あいさつや言葉遣いを大切にして，人に対する思いやりの心を継続して取り組むとともに，教職員自らが言動に注意し，学校における人権教育を展開していきます。</p> <p>② 「Moriya きらめきフォーラム」の継続開催と，その内容について保護者への働き掛けを行っていきます。</p> <p>③ 人間関係づくりが本市の課題の一つです。Q Uテスト（心理状態を把握するための民間テスト）等を活用して人間関係を把握し，心の居場所のある学年・学級経営を目指していきます。</p>

項目	5 教育相談体制の充実
目標・取組概要	<p>① 守谷市総合教育支援センターの設立により，児童生徒の心身の問題に関わる様々な課題に対して，より機動性，柔軟性のある支援を行うとともに，保護者への助言や支援等の充実も図ります。</p> <p>② 児童福祉課や生涯学習課（放課後子ども教室，児童クラブ）などと連携を密にし，専門員や専門機関との連携を図りながら，多角的に児童生徒や保護者の支援に努めます。</p>
自己評価	<p>① 本年度から，守谷市総合教育支援センターを設立し，心の相談員事業，教育相談員事業，適応指導教室事業が本センターに統合され，より機動性，柔軟性のある支援が可能となりました。</p> <p>また，訪問支援も積極的に行い，児童生徒の実態に即した相談活動や援助支援を充実させることができました。本センターにおける相談件数は，603件（うち，電話相談が220件，来所相談が238件，訪問相談が145件）でした。</p> <p>不登校児童生徒の不登校率は，小学校で0.67%，中学校で2.34%となり，いずれもやや減少しました。不登校の背景には，児童生徒の情緒的混乱や家庭環境も含めた複合的な事由が挙げられます。各学校での家庭訪問や電話連絡などのきめ細やかな個別への対応とともに，小中の一貫した支援体制の確立が重要です。</p>

	※ 不登校出現率の推移 (単位：%)						
	区 分	小学校			中学校		
		H26	H27	H28	H26	H27	H28
	県	0.37	0.36		2.79	2.96	
守谷市	0.62	0.79	0.67	2.95	2.74	2.34	
今後の課題と対応の方向性	<p>① 相談事業の充実に伴い、相談員数が不十分という課題が生じています。支援センターだけでなく、各学校や中学校区の生徒指導部との円滑な連携体制の構築を図っていきます。</p> <p>② 守谷市総合教育支援センターを軸として、様々な専門機関がどのように関わりあっているかを把握し、情報や支援の共有化を図ります。</p>						

〈外部の方々から頂いた意見〉

1 基本的行動様式の徹底指導と基本的生活習慣の確立について

- * 1学期には朝のあいさつができなかった児童が、現在は、あいさつをしていく。
- * 「あいさつの習慣化」について、児童のあいさつは良くなってきていると感じる。児童にあいさつさせるには、まず地域、保護者のあいさつを積極的に行う必要がある。
- * 今後も、児童にあいさつの意義を理解させ、あいさつの一般化を図ってほしい。
- * あいさつは、学校・家庭・地域において実践できるよう連携が必要である。
- * 家庭においても、手伝いやあいさつが自然にできるようにしたい。
- * 豊かな心を育てていくためには、家庭でのよい習慣づくりが基盤となる。「早寝・早起き・朝ご飯・あいさつ・お手伝い」等基本的なことは外さないことが大切である。
- * 子供たちが進んであいさつするようになった。ただ、不審者だと思われてしまうので声を掛けにくいところがある。
- * 朝のあいさつは、少しずつ良くなってきている。親の意識を上げられればもっと良くなるのではないか。
- * あいさつは人と人との意思疎通のツールである。あいさつ運動を見ると清々しい。
- * 毎日、正門で挨拶をしているが、自分から頭を下げて挨拶をできる生徒が多くなった。不審者対応で挨拶をしない自治体もあるとニュースで報道されたが、挨拶は大切である。
- * 挨拶の声が小さくなってきたという保護者の意見もあったが、すれ違う生徒のほとんどが大きな挨拶をしてくれているので引き続き自信をもって指導してほしい。

2 道徳授業の充実と豊かな人間性の育成について

- * 児童のコミュニケーションの希薄化が心配である。外に出て、遊ぶことで社会性を培ってほしい。
- * 探検家やスポーツ選手、退職された校長先生の話など、心に染み入る話を聞く機会を設けることも検討してみるとよい。
- * 道徳学習は、学級差が生じないようにすることも大切だが、リーダー教師の指導性を生かしたり、クラスを交換して指導したりすることも考えてみるとよいと思う。

- * 道徳の授業で、子供たちがとてもよく発言している。道徳で、生命尊重をテーマにすることは、とても良い取組である。「死んでしまえばそこで終わり」「生きていれば明日がある」「明日が来れば何かが変わる」ということを教えてほしい。
- 3 「ゼロトレランス（生徒規律指導を厳格に行う教育方法）」の考えを取り入れた生徒指導体制の構築
- * NHK「100万人の行動宣言」を見て、子ども一人ひとりはいじめを無くそうと考えている。ただ、人前で声を大にしていうと標的にならないかと心配する気持ちもあるはずである。なので、大人に話しやすい環境、いじめている子を断固として注意できる環境をつくってほしい。
- 4 一人ひとりを大切にし、明るい社会を築いていこうとする人権教育の推進について
- * 子どもの個性を認め褒めてくださる先生を子どもは慕っております。保護者として嬉しく思う。
 - * 人権講演会はすばらしいと思います。地域の人にもっと呼び掛けをしたらどうか。協力します。
 - * いじめ防止における生徒会主導の取組は素晴らしい。子どもたち自身が問題意識をもって考える場をつくることは大変良い。いじめをいじめと認識できない場合もあるのではと感じる。
 - * いじめは、する方・される方双方の問題解決が大切である。複数の教員で協力して積極的に防止に努めてほしい。
 - * 今は目に見えづらいいじめも多いので、私たち保護者と先生が心一つに子どもを見守っていきたい。地域の方の目も大切である。
 - * 人間関係を推進するうえで、「いじめ」の問題は欠かせない。いじめ防止基本方針により、いじめの定義が明確になり安心している。定義が明確になれば、自殺は防げるはずである。また、しなやかな心を育成する教育も大切である。
 - * いじめ防止へ向けて、今後も生徒の観察と情報収集に努めてほしい。また、いじめがあったときでも、迅速な対応をお願いしたい。
- 5 教育相談体制の充実について
- * 不登校の児童について様々な面で配慮していただきいつも感謝している。
 - * 悩む子どもの姿をよく見てくださりとても救われている。先生がじっくり話を聞き子どもの言葉を尊重してくれていることを感じている。
 - * アンケート調査の継続と、生徒が小さなことでも先生に話ができるような環境をこれからもつくってほしい。
 - * 不登校などの問題については家庭との連携が必要である。先生方だけでは大変なところもあるので外部機関との連携も必要であろう。
 - * 不登校生徒への対応は難しいと思うが、一人ひとりに寄り添い、少しでも学校に足が向くようにしてほしい。
 - * 今後もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して、生徒、保護者への支援をお願いしたい。

〔3〕 ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

子どもたちの体力低下が著しいと言われていることから、その解決のために、「食に関する指導」や「体力づくり」を進め、健やかな児童生徒を育てます。

また、子どもたちの安全は、教育活動を支える最重要課題であります。安全についての考え方を子どもたちに周知徹底するとともに、安全確保のための万全な体制をつくり、安全・安心な学校づくりを目指します。

項 目	1 体力の向上						
目標・取組概要	① 創意工夫を凝らした日常的な体力づくり活動を推進します。 ② 子どもたちの体力や運動能力の実態を捉え、体育の授業や外遊びの工夫改善を図ります。 ③ 外部指導者の積極的導入や活動場所を確保し、中学生の部活動の活性化を図ります。						
自己評価	各学校では、体育の授業や業間休み、体育的行事、中学校での部活動を含めた教育活動の中で積極的に運動を取り入れ、体力の向上を図ってきました。体力テストA+Bの達成率は、小学校が53.64%で県平均より0.84ポイント下回り、中学校が60.07%で県平均より0.64ポイント下回っています。 ※ 体力テストA+Bの達成率の推移 単位：%						
	区分	小学校			中学校		
		H26	H27	H28	H26	H27	H28
	県平均	53.3	52.9	54.48	59.7	60.1	60.71
	守谷市	51.2	52.5	53.64	62.2	62.8	60.07
今後の課題と対応の方向性	体力テストA+Bの達成率は、小・中学校は県平均を若干下回る結果となりました。茨城県は平成28年度全国体力テストにおいて、小学校5年生では男女とも第2位、中学校2年生では男子が第1位で、女子が第2位であったことを考えると、本市の子ども達もかなり体力が付いていると思われまます。今後も体育の授業だけでなく、全教育活動の中で運動を取り入れる機会を設定し、体力の向上を図ります。						

項 目	2 健康教育の充実					
目標・取組概要	① 薬物乱用防止教室の実施と喫煙防止教育の充実を図ります。 ② 指導計画に基づく組織的・計画的な性教育を実践します。					
自己評価	学校医による小児生活習慣病予防教室、講師による薬物乱用防止教室、がん予防教室、性教育講演会、養護教諭による歯磨き指導等の発達段階に応じた健康教育を実践し、心身の健全な発達に対しての関心を高め、安全な行動や規律ある集団行動の体得につながりました。					
今後の課題と対応の方向性	健康教育の充実は、引き続き関係機関（学校医、保健センター、警察等）と連携して健康に対する自己管理能力を高めていきます。					

項 目	3 危機管理体制の確立と安全教育の実施
目標・取組概要	<p>① 交通安全教育，防災教育，防犯教育の徹底を図ります。</p> <p>② 緊急時に役立つ防災・防犯マニュアルを見直し，実践化を図ります。</p> <p>③ 不審者侵入対策として，防犯カメラを有効に活用します。</p> <p>④ 通学路における要注意箇所・時間帯等を理解し，危険予測・回避能力の向上と徹底を図ります。</p>
自己評価	<p>① 各校の交通安全教育，防災教育，防犯教育は，保護者や地域，関係機関と連携した様々な取組が行われ，児童生徒の安全・防犯意識を高めることができました。</p> <p>② 各校にはメールマガジン配信のための環境が整っており，全校で活用を図っています。不審者出没，台風や降雪による登下校時刻の変更，避難訓練における引渡しの情報等を瞬時に一斉に送信でき，危機管理体制の確立の上で大きな効果を上げています。</p> <p>③ 平成28年度も「防災の日」に合わせ，市と共催で市内小中学校全校が一斉に防災訓練を行いました。各小中学校では保護者への引渡し訓練も同時に行われ，多くの保護者が参加し関心を高めることができました。</p> <p>④ 各校とも青色防犯パトロール車を活用し，児童生徒の登下校時には青色灯を点灯しながら巡回活動を行っています。教員だけでなく，保護者や地域のボランティアの方々の参加により，登下校時の児童生徒の安全確保に大きく貢献していると思われま</p>
今後の課題と対応の方向性	市と共催で市内全小中学校と地域が連携して防災訓練を行い，成果を上げることができました。今後は，保育所や幼稚園の参加も呼び掛けていきます。

項 目	4 食に関する指導の充実
目標・取組概要	<p>① 食に関する計画や指導の充実を図り，児童生徒が正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付けることができるようにします。</p> <p>② 給食活動等を通じて，自らの健康管理ができるようにするとともに，健康な体や豊かな心の育成を図ります。</p>
自己評価	食に関する指導は，栄養教諭を講師に招いての授業や給食訪問を行いました。その結果，食事のマナーや衛生面に着目する児童生徒が増えたり，栄養や食物についての知識や関心が高まったり，望ましい食習慣の定着を図ることができました。
今後の課題と対応の方向性	栄養教諭の専門性を生かした食育の指導体制の充実を図っていきます。

	<p>食物アレルギーに関する対応は、重要課題の1つです。アレルギーを持つ児童生徒については、担任1人ではなく、複数の教員で対応するよう周知徹底を図ります。</p> <p>学校における食育指導のみならず、家庭と連携した食育指導（朝ご飯の大切さ等）についても充実を図っていく必要があります。</p> <p>また、家庭との連携により、食育以外の基本的な生活習慣を更に見直す機会も作っていきます。</p>
--	--

〈外部の方々から頂いた意見〉

1 体力の向上について

- * 現在の子供の体力の低下が心配される。スポーツ少年団などの活動だけでなく、外で元気に遊ぶ機会を増やし、体力向上を図ってほしい。
- * 体力を付けさせるための行事の充実や持久走大会での走る距離の見直しをしてほしい。
- * 学力と体力は車の両輪と同じで、どちらも大切だ。健康と体力を育んでいくためには、十分な睡眠時間、良質な食事、運動時間の確保が大切である。運動に関しては、自ら体力を高めるような学習の工夫改善を今後も図ってほしい。
- * 体力テストで大きく向上が見られたことは素晴らしい。運動会で組体操から表現運動に変えたことも、実際に見てよい取組だったと思う。特に、周りの動きに合わせて、自らの動きをきれいに見せることができている、指導が行き届いていることがよく分かった。
- * 投力アップのための器具を使い、楽しそうに運動している。投力アップのための取組を引き続きお願いしたい。
- * 縄跳び台が整備され、以前より縄跳びの練習をするようになった。
- * 毎日の朝マラソン（始業前走）は、体力づくりのために今後も続けてほしい。
- * 運動部活動に所属していない生徒や、引退した生徒に対する運動不足解消の手立てをお願いしたい。長距離走の取組は継続してほしい。
- * 体育の分野でも小学校と連携し、共に体力を向上させていくことができれば部活動にもつなげることができると思う。
- * 運動部の活躍が体力向上にも結びついている。

2 健康教育の充実について

- * 学校保健委員会の参加者をもっと呼びかけ、たくさんの保護者に参加させる必要がある。
- * 養護教諭が授業に参加するのは、素晴らしい。保健の授業もしっかり行っているようで感心している。
- * 性教育講演会が良かった。もっとたくさんの保護者に聞かせたい。
- * 若い人が朝食を抜く傾向がある昨今、朝食摂取の励行、意識付けを継続してほしい。

3 危機管理体制の確立と安全教育の実施について

- * 登下校でこれまで事故がなかったことが良かった。朝は交通指導に立っているが、帰りは交通指導員がいないので心配である。いつも元気な挨拶を返してくれると安心する。

- * 「自分の命は自分で守る」ことについては具体的にどのようにしているのかを知りたい。
- * P T Aと学校が連携して立哨指導やパトロールを今後も実施してほしい。
- * 災害時の被害を最小にするために、災害訓練を大切に、保護者、生徒への意識付けを今後も継続してほしい。
- * 自転車の乗り方等、安全指導は家庭との連携が必要である。
- * 自転車の乗り方については事故があってからでは遅いので、引き続き意識を高める指導をお願いしたい。

4 食に関する指導の充実について

- * 今年度は、栄養技師による食育指導が行われたため、昨年度より意欲が向上したと聞いている。来年度は、就寝時刻を中心に取り組んでほしい。
- * 「忙しい」子どもに自覚をもたせるのと同時に、保護者も対応して食育の推進をしてほしい。

〔4〕 ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

21世紀を生きる子どもたちには、新しい時代に対応した教育が必要です。守谷市においては、子どもたちが自らの力で将来を切り開いていくために必要な外国語教育・情報教育・環境教育・キャリア教育の充実を図ります。

項 目	1 国際理解教育の充実と英語力の向上
目標・取組概要	① 「英語活動」「外国語活動」において、国際理解教育の更なる推進を図ります。 ② 「A L Tとあそぼう」の計画的実施と内容の充実を図ります。 ③ 外国の姉妹都市や市内における外国人との交流活動を推進します。
自己評価	<p>国際理解教育と小学校の外国語活動及び中学校の外国語教育は、平成13年度から全校にA L T（外国語指導助手）を配置し、授業だけでなく日常生活においてもA L Tを積極的に活用し、外国語に触れる体験的な活動の場面を多く設けるなど充実した活動が展開されています。毎月第2土曜日に実施している「A L Tとあそぼう」「A L Tと話そう」には希望者が多く、関心の高さが伺えます。</p> <p>平成28年度児童アンケートでは、「外国語（英語）活動は楽しいか」という質問に対して、91%の児童が、また「英語を話せるようになりたいか」という質問に対しては、92%の児童が肯定的な回答をしています。</p> <p>平成28年度の保護者アンケートでも「A L Tの全校配置はよいと思う」99%、「子どもの外国語への興味関心が高まった」81%、「外国語活動を参観したことがある」100%と、本市の取組について大変好意的です。</p>

	
今後の課題と対応の方向性	<p>本市では、13年前から全校にALTを配置し、小学1年生から週1時間の英語活動を実施してきた結果、国際理解力や外国語への興味関心が高まってきています。「話せる英語」を目指し、教育課程外の活動である「ALTと話そう」を、中学生にも適した内容で実施し、その充実に努めていきます。</p>

項目	2 外国語教育の小中連携と充実
目標・取組概要	<ol style="list-style-type: none"> ① 中学校外国語教育へのスムーズな移行を図るためのガイドラインを作成します。 ② 中学校における外国語教育の充実を図ります。 ③ 英語への関心を高める「英語検定」を積極的に推奨します。
自己評価	<p>外国語活動推進委員会を定期的に開催し、授業研究等を通して各学校の外国語担当者とALTとが意見交換を行い、指導方法の工夫改善、円滑な小中の接続を図っています。</p> <p>平成28年度「中学校3学年時における英語検定3級以上の取得率」調査では、市全体で取得率39.6%となり、全国平均取得率36.1%より上回った結果となりました。全小学校にALT1人を配置し、小学1年生から週1時間の英語活動を実施してきた結果、英語に対する関心が高まり英検取得につながったものと考えます。</p> <p>【直近3年間の英検取得率状況】</p> <p>平成25年度：35.5%</p> <p>平成26年度：38.6%</p> <p>平成27年度：44.3%</p> <p>小中一貫教育を推進していく中で、義務教育9年間の発達段階における目標やコミュニケーションモデル等を示した「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」を作成し、実践しています。</p>
今後の課題と対応の方向性	<ol style="list-style-type: none"> ① 「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」に基づき、英語活動及び外国語活動の推進等について、外国語活動推進委員を中心に研究していきます。 ② 中学校3学年時における英語検定3級以上の取得率は高いものの、取得率50%を目指して取り組んでいきます。
項目	3 情報教育の推進とコンピュータ活用能力の向上
目標・取組概要	<ol style="list-style-type: none"> ① 小学校では、情報手段に触れ、慣れ親しみ、適切に活用する能力を育成します。

	<p>② 中学校では、情報手段を適切に使い、自ら必要とする情報を選択し、目的や条件に応じて処理・加工し、自らの情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な能力を育成します。</p> <p>③ 情報活用操作能力や情報モラル向上のための指導を各教科等に位置付けます。</p> <p>④ ICT機器等の操作方法及び活用方法の研修会を計画的に実施します。</p> <p>⑤ ICT支援員を配置し、教員の授業アイデアの具現化、教員の情報スキルの向上を図ります。</p>
<p>自己評価</p>	<p>① コンピュータ、電子黒板等のICT機器や、デジタル教科書やデジタルコンテンツ等を活用することにより、児童生徒の興味・関心を高めたり、学習内容のイメージを視覚的に捉えさせたりすることができました。</p> <p>② タブレットが児童生徒3.6人に1台以上配置されたことで、授業での利活用を図っています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>③ 定期的に情報教育推進委員会を開催し、教育委員会と各学校との連携を強化しています。また、情報教育推進委員会では、各校の情報教育に係る優れた実践をまとめた「実践事例集」を作成しました。</p> <p>④ タブレットと電子黒板の活用に関する研修を、各校において実施し、小中学校教員に対してICTを活用した授業改善を図る研修を実施しました。</p> <p>⑤ 小中一貫教育を推進していく中で、義務教育9年間の発達段階に応じて身に付けるべき情報スキルと情報モラルを示した「守谷市小中一貫情報教育指導計画」を作成し、各教科等で指導しています。</p> <p>⑥ ICT支援員の配置により、ICTの利便性が周知され、活用する教員が増えた。学校におけるICTの利活用が更に進みました。</p>
<p>今後の課題と対応の方向性</p>	<p>① 教員のICT機器を使った指導力はかなり向上してきていますが、活用の仕方に教員間の差が生じていることも事実です。情報教育推進委員会を中心にコンピュータ活用研修会や校内研修を行うとともに、ICT支援員を活用して、教員個々のICT指導力の</p>

	<p>向上に努めます。</p> <p>② 平成25年度に作成した「守谷市小中一貫情報教育指導計画」の内容を見直しました。今後はその積極的な活用について、情報教育推進委員会を中心に推進していきます。</p> <p>③ 「ネットいじめ」も大きな課題の1つです。背景には、ゲーム機やスマホ等の性能を理解していない保護者が多いことが挙げられます。保護者に対してそれらの正しい認識を周知していくとともに、正しい使い方や危険性について親子一緒に理解させていく必要があります。</p>
--	---

項 目	4 環境教育の推進
目標・取組概要	<p>① 自然体験を通して、環境に対する豊かな感受性の育成を図ります。</p> <p>② 環境保全教育やエネルギー資源教育を通して、環境意識の高揚を図ります。</p> <p>③ 総合的な学習の時間を活用し、身近な環境問題への取組を行います。</p>
自己評価	<p>① 総合的な学習の時間や特別活動を通して、環境保全に関する興味関心を持ち、地区の空き缶拾いや河川敷クリーン作戦に参加するなど、実践活動力を身に付けました。</p> <p>② 愛宕中学校区においては、「野鳥の森少年団」が継続的に活動しています。</p>
今後の課題と対応の方向性	環境教育では、各学校において工夫した取組を行い、成果を上げている学校があります。これらの取組を市全体に周知し、環境保全への意識を高揚させていきます。

項 目	5 キャリア教育の推進
目標・取組概要	<p>① 発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育（児童生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育）を推進します。</p> <p>② 働く意義を体感できる職場体験学習の充実を図ります。</p>
自己評価	キャリア教育では、市内の中学2年生が職場体験学習を行い、望ましい勤労観や職業観を育むとともに、体験報告会を通して情報活用力・表現力を養うことができました。
今後の課題と対応の方向性	中学校2年生で実施している「職場体験学習」は、望ましい職業観や勤労観を育成するのに大いに役立っています。しかし、毎年各学校では事業所確保に大変苦勞しているため、商工会やライオンズクラブ等に働き掛けをして確実な事業所の確保に努めます。

〈外部の方々から頂いた意見〉

1 国際理解教育の充実と英語力の向上について

2 外国語教育の小中連携と充実について

※ 以下は「1」及び「2」に共通する意見

- * 1年生から英語の授業を行っていて驚いた。授業の様子をもっと見たい。
- * みんな楽しく英語活動を行っている。将来につながっていくことを切に望んでいる。
- * 外国語習得は、今後の進学・就職の際にとっても重要である。就業の際にも大切となる。守谷市をあげての推進は今後も続けてほしい。
- * 語学には、会話と勉学の二面性があり、会話ができるようになれば、勉強も楽しくなるはずである。修学旅行での取組は大変素晴らしい。
- * 英語教育の充実ぶりは頼もしい。東京オリンピックに向けて、外国語の話せる児童、コミュニケーション能力の高い児童を育てることが重要である。
- * 活発で意欲的なコミュニケーション活動を展開していて素晴らしい。公立では全国トップレベルである。(関西大学・田尻教授視察より)
- * ALTが各校に配置されているのは大変良い。外国人とものおじせずに話すことができるのは大切である。
- * ALTの積極的活用の成果が表れている。また、資格取得は英語を覚えるための最適手段と考える。

3 情報教育の推進とコンピュータ活用能力の向上について

- * 市のICT指導員が、先生のフォローをしていて、先生方も助かっていると思う。
- * 電子黒板やタブレット端末などのICT機器の活用について、どのクラスも十分活用がされている。これからの児童に身に付けるべき資質として推進してほしい。
- * ICT機器の活用はすばらしいと感じるが、ノートと鉛筆で書く活動も忘れずに指導してほしい。
- * 情報機器を使った学習を充実してほしい。企業の協力を得ながら情報モラル教育を徹底していく必要がある。
- * 学校で使用しているタブレットの台数、使用状況が知りたい。タブレットが児童数分は配置された方が良いのではないかと思う。
- * ネットの危険に対して、保護者の理解が追いついていないのではないかと心配だ。学校と保護者が協力して、子供たちからの情報を敏感に察知して手を打っていくことが必要だと思った。
- * 電子黒板、タブレットなどのICT機器をどの学年も使っているのはすばらしい。
- * 電子黒板やタブレットの整備はすばらしい。ぜひ、使う回数を増やしてほしい。
- * ICTは怖がらずに触れることが大切である。生徒が興味をもてる授業をこれからも続けてほしい。
- * ネットの負の部分の指導し、生徒がトラブルに巻き込まれないようにしてほしい。
- * タブレットや電子黒板を活用した授業が多く見られ、生徒が楽しそうに活動しているのが新しい。先生方の研修に時間が掛かるだろうが頑張してほしい。
- * ICT機器に対する先生方のスキルアップはたいへんだと思うが、研修を積みぜひ有効活用していただきたい。

※ 以下は「1」「2」「3」に共通する意見

* 急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、英語やICTなど新たな取組が着実に進められている点がよく分かった。一方で、先生方や児童に多くの負担がかかるのではないかとの危惧もある。専門家や地域の協力も得ながら、無理のないように進めてほしい。

5 キャリア教育の推進について

* 様々な活動を通して、自己を知ることは重要である。夢のある生き方を考えた場合、選択肢は多い方が良い。

* キャリア教育通信「baum」などの便りで受験の意識を中一から感じられることが良い。

〔5〕 パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

児童生徒にとって、学校・家庭・地域は大切な学びの空間です。それぞれの独自性を生かしながら連携していくことが望まれています。

学校は、積極的に情報を公開することで、信頼される学校づくりを進めるとともに、家庭・地域と連携し、みんなで子どもたちを育む教育のシステムづくりを推進します。

項目	1 地域社会への授業公開と積極的情報発信
目標・取組概要	① 学校便りの発行や学校ホームページの充実を図ります。 ② コミュニティスペースを活用した地域に開かれた学校づくりの推進を図ります。
自己評価	① 家庭や地域社会への積極的な情報発信は、各学校のホームページが有効です。各学校で工夫が見られ、全ての学校でトップページの中心にその日のトピックスが写真入りで掲載され、ほぼ毎日更新されています。保護者はホームページにアクセスすることで、その日の学校の様子が分かるので高い評価を得ています。 ② メールマガジン配信システムが全校に整備されており、天候不順による登校時刻変更・不審者情報等の緊急性のある情報提供そのほか、引渡訓練の連絡など迅速な情報提供に役立っています。
今後の課題と対応の方向性	① 市全体として、ホームページによる家庭や地域社会への情報発信が充実し、素晴らしいものに仕上がってきています。アクセス数も多く、保護者の中には楽しみにしている方も少なくありません。更に見やすく、必要な情報の提供ができるよう、管理職や情報推進委員会を中心に話し合い、工夫改善を図っていきます。 ② メールマガジンによる保護者への情報発信が定着してきており、大いに役立っています。今後も、配信する情報内容に留意していきます。
項目	2 特色ある学校づくりの推進
目標・取組概要	① 地域社会人ボランティアを有効に活用し、授業の活性化を図ります。

	② ブックトークや授業での支援協力，校外活動での引率協力等，積極的にPTAや地域の人材の協力を図ります。
自己評価	<p>① 外部人材の活用については，学校単位でスクールサポーターや学校支援ボランティアが組織され，登下校での安全指導や学校の環境整備をはじめ，授業のサポートや個別学習にも積極的に参加してもらい，効果が上がっています。H28年度学校アンケートにおいても，97%の児童が，地域の方から話を聞いたり，一緒に活動したりする学習は楽しいと回答しています。</p> <p>② 地域の教育力を十分に活用するため，ゲストティーチャーを招聘する機会を多く設けることで，子どもの学習意欲が高まり職員自身の指導意識も高くなりました。同時に，地域の学校理解にもつながっています。</p>
今後の課題と対応の方向性	<p>① 地域に支えられる学校として，学校ボランティア，スクールサポーターの協力がより効果的に活用・運営できる組織づくりを促進します。また，学習面でのボランティアやサポーターの活用について，個人情報保護管理に留意していきます。</p> <p>② 学習ボランティアとの打合せ時間の確保と調整が課題となっており，ボランティアとの事前打合せカードを工夫し，改善に努めます。</p>

項目	3 4 中学校区生徒指導部会による生徒指導体制の確立
目標・取組概要	<p>① 児童生徒の安全確保のためのパトロール活動や，あいさつ・声かけ運動を実施します。</p> <p>② 児童生徒を取り巻く今日的な問題について，情報の共有化と対応への共通実践化を図ります。</p>
自己評価	平成28年6月24日に「いじめ問題対策連絡協議会」を開催し，児童生徒を取り巻く今日的な問題について，情報の共有化と対応に係る協議を行いました。その際，生徒指導部会では「いじめ問題に係る現状と学校・家庭・地域・関係機関等との連携について」協議会を持ち，有意義な話し合いが行われました。
今後の課題と対応の方向性	<p>「守谷市いじめ問題対策連絡協議会」では，取手警察署の講話や，その後の分科会での学校と関係機関との情報交換が貴重な機会となっています。</p> <p>しかし，年1回の開催ということもあり，その後の関係機関との連携の在り方が課題となっています。必要とされる機会にスムーズな連携が図れるよう努めていきます。</p>

項目	4 地域ボランティアとの連携による登下校時の児童生徒の安全確保体制の確立
----	--------------------------------------

目標・取組概要	<p>① スクールミニパトの有効活用を図ります。</p> <p>② P T A, 地域ボランティア, 関係機関と連携し, 情報交換やパトロール等の協力体制を図ります。</p> <p>③ 通学路の定期的な点検活動を行います。</p> <p>④ 地域の人々と協力し, 地域安全マップを作成します。</p> <p>⑤ 「子どもを守る110番」との協力連携を図ります。</p>
自己評価	<p>① 地域やP T Aの協力を得て, 通学路の交通安全のための施策を各関係機関に要望し, 成果を上げることができました。</p> <p>② 複数学年による集団下校を毎日実施しました。通学班長会議を設定し, 通学班による登下校の安全に対する意識付けとリーダーの育成を図りました。</p>
今後の課題と対応の方向性	<p>① 通学路については, 市, 学校, 警察及び関係機関と安全点検を行い, 道路のカラー舗装, 柵の設置や交通規制等の対策を講じています。</p> <p>今後も市, 学校, 警察及び関係機関と連携した通学路の安全確保が必要となっています。</p> <p>② 平成28年度は, 児童生徒の交通事故が21件(内, 自転車運転中の事故が19件)発生しました。飛び出しや左右確認不足など児童生徒側の原因によるものが9件ありました。登下校中などの管理内での事故は11件で, 昨年度より5件増加しています。</p> <p>登下校だけではなく, 帰宅後や休日の交通安全, 安全だと思われる場所での危険性についても, 引き続き機会あるごとに指導していきます。</p>

項 目	5 「学校運営協力員会議」の充実と学校評価の活用
目標・取組概要	<p>① 信頼される学校づくりを進めるため, 保護者や地域住民の意見を積極的に取り入れます。</p> <p>② 保護者や児童生徒に対する学校アンケートを実施し, 学校の課題を明確にして改善を図ります。</p>
自己評価	<p>学校運営協力員会議を定期的開催し, 学校の取組の現状や課題についての意見や感想等を頂くことができました。また, 学校評価の結果についても広い視野から助言を頂くことができ, 学校改善に役立てることができました。</p>
今後の課題と対応の方向性	<p>学校運営協力員会議は, 学校評価結果を受けて開催していますが, 形骸化しないよう学校課題に対してより効果的で客観的な意見が出やすい会議の持ち方を工夫していきます。</p>

項 目	6 保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」の推進
目標・取組概要	<p>① 「守谷の子どもを育む」という視点を重視し、設置者にとらわれずに、「守谷型」の保幼小中高一貫教育を目指します。</p> <p>② 守谷市保幼小中高一貫教育推進委員会，保幼小連絡協議会，各中学校区推進会議，を計画的に開催し，一貫教育を推進します。</p> <p>③ 小中一貫教育を推進するために，小中教員間交流の充実を図ります。</p> <p>④ 遊びから学びへのつながりを円滑にするために，保幼小接続の充実を図ります。</p>
自己評価	<p>① 「世界で輝く人づくり」をテーマに、「確かな学力，豊かな心，健やかな体を育み，将来の夢に向かって努力できる児童生徒の育成」を目標とした守谷市保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」を推進しています。</p> <p>4つの中学校区ごとに特色ある取組を行いながら，最終的には社会に貢献できる人材育成を目指します。各中学校区でアイデアを出しながら児童生徒及び教職員の交流を中心に様々な取組を行い，大きな成果が得られています。</p> <p>学区内の小学生と中学生とで行う「交流教室」や小中学校教師による「乗り入れ授業」等，有意義な活動を行うことができました。</p> <p>② 8月2日と3月24日に全職員対象の全体研修会，学期1回の推進委員会，月1回の中学校区部会，不定期に企画部会や幹事会等の一貫教育を推進していく中で，より効果的に進められるよう様々な会議を開催し，全学校，全教職員が一丸となって推進できる体制を整えました。</p> <p>③ 全ての学校，児童生徒に共通して行う必要性がある学習目標とスキル・生活目標とスキルを義務教育9年間の発達段階で身に付けるべく方向性を示した「学びのプラン」，家庭学習のあり方を示した「家庭学習のてびき」，9年間の発達段階における目標やコミュニケーションモデル等を示した「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」，9年間の発達段階に応じて身に付けるべき情報スキルと情報モラルを示した「守谷市小中一貫情報教育指導計画」，中学校区ごとに指導の重点となる内容項目を設定し，9年間の系統性のある道徳教育を目指すための「守谷小中一貫道徳教育計画」の有効活用について，共通理解を図りました。</p> <p>④ 教師の指導力の向上や児童生徒の学力向上につながる，小小，小中連携による協働的な授業づくりを進めてきました。中学校区の課題を明確にし，グランドデザインの一部統一化を図りました。中学校区の課題解決を図るため，協働的な授業づくりは有効でし</p>

	<p>た。</p> <p>⑤ 保幼小の連携は、平成28年12月11日に大野小学校で「保・幼・小連絡協議会」が開催されました。「学びのプラン」の共有がテーマであり、公私の垣根を越え、子ども達の成長に向けたより良い支援体制について共通理解が図られ、保幼小接続の強化が図られました。</p>
今後の課題と対応の方向性	<p>① 保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」がスタートし4年が経過し、「学びのプラン」、「家庭学習のてびき」、「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」、「守谷市小中一貫情報教育指導計画」、「守谷市小中一貫道徳教育指導計画」の有効活用やその内容については検証するとともに、見直しを図る必要があります。</p> <p>② 児童生徒、教職員の交流については、効率化を図るとともに、全中学校区で「交流教室」や乗り入れ授業を取り入れていきます。教師の指導力の向上や児童生徒の学力向上につながる協働的な授業づくりに関しては、より、中学校区での学びの系統性及び教科の系統性を意識した授業を行えるようにします。</p> <p>③ 小中一貫教育の核となる「学びのプラン」については、学習指導案に位置付けることで、その指導の徹底を図ります。</p> <p>④ 保幼との接続については、交流活動の充実とともに、「学びのプラン」(生活スキル)の内容を保幼と小との円滑な接続に生かすようにします。</p>

〈外部の方々から頂いた意見〉

1 地域社会への授業公開と積極的な情報発信について

- * ホームページの更新は適切に行われている。学校の情報が伝わる。
- * 地域の方は電子媒体はあまり見ない。紙媒体である回覧板の学校だよりの方が閲覧率は高いはずである。もっと、紙媒体で広報する手段を考えるべきである。
- * 授業参観の機会が定期的であり、子どもの成長の様子等がよく分かるので続けて欲しい。
- * 開かれた学校づくりにおいては、情報発信を大切に進めてほしい。
- * 子供の様子が分かり、話題になるので学級通信を多く出してほしい。
- * 学年によってホームページのアップ率が低い学年があるのが残念である。
- * たくさんの保護者がホームページを見ている。今後も続けてほしい。
- * ホームページは毎日閲覧している。忙しいなか大変であるが、今後も配信に力を入れ、地域に学校を身近なものにさせてほしい。
- * ホームページの頻繁な更新で保護者が知りたいことがリアルタイムに情報を得ることができてありがたい。心温まるコメントに毎度涙する。

2 特色ある学校づくりの推進について

- * 人数が増えたせいか、行事の縮小、簡易化が目立ち、子どもたちのための行事という印象がない。行事のマンネリ化を改善すべき。

- * 学校に対する地域の協力はますます必要になってくると思う。また、学校だけで地域人材を探すことは難しいと思う。学校と地域をつなぐネットワークづくりが大事になってくると思う。
 - * 米づくりについては、今後も地域の特色を生かして継続してほしい。
 - * 野鳥の森の木道整備への協力をお願いしたい。
- 3 サポートチームによる生徒指導体制の確立及・4 地域ボランティアとの連携による登下校時の児童生徒の安全体制の確立について
- * 子供たちが直接、お礼の手紙をもってきてくれて、子供たちの顔と様子もわかった。あいさつに来てくださり感謝している。
 - * もっと地域人材を活用してよい。地域との連携を深めるためにも活用率を向上させるべきである。
 - * 時折、不審者情報もあり、地域全体で子供たちを犯罪から守る活動は、ますます重要になると思う。日頃の見守り活動や行事・学習への参加など、子供たちとふれあう機会をできるだけ多くもち、安心して学校生活を送ることができるようにこれからも協力していきたい。
 - * 安全に通学できるように、見守りボランティアも含めて、体制を整えていかななくてはいけない。地域でもできることがあれば呼びかけたい。
- 5 「学校運営協力員会議」の充実と学校評価の活用について
- * 学校評価の項目の一部を校区で共通にすることで、校区の成果を校区で検証しやすくなるのではないかな。
 - * 学校評価アンケートの一部校区統一化を図ってはどうか。各学校の成果を校区で共有できるのではないかな。
- 6 保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」の推進について
- * 小学校の働きかけが中学校に生きている。愛宕中学校校区は学校間で刺激し合って小中一貫教育を推進していて素晴らしい。先生方も学校を超えて研修しているのは他にはない。学校グランドデザインに9年間を見据えた目標があるので見通しがもてる。そのことが愛宕中学校の中一ギャップの解消につながっている。
 - * 「家庭学習のてびき」については、月初めに目標を決めて月末に目標の達成を自分で評価させる等、書く内容を明確化するとよいのではないかな。
 - * 小学生の役に立てて良かった。陸上競技会での活躍を期待している。(守谷高校生徒)
 - * 文化祭で小学生が守谷高校のために応援歌を歌ってくれたのがうれしかった。(守谷高校生徒)
 - * 一貫教育における共通テーマをもって取り組んだことは素晴らしい。人前で意見が言える、異なる意見を受け入れ理解するような取組を期待する。
 - * 不安な新入生のためにも、事前に情報を共有し、顔を覚えておくという活動がとてもいい。また、小学校の先生が子どもの成長を見る機会をつくっていることもいい。
 - * 小中一貫の取組は素晴らしい。保護者にも目的を理解していただく取組を継続してほしい。
 - * 「学びのプラン」(生活スキル)は、保護者との連携も重要である。

- * 愛宕中学区での小学校の教員との協働の指導案作成など，児童生徒の発達段階に即した手立てが取り込めるので良いことだと思う。
- * 学区内で統一して行っているので，中学校に入学しても戸惑いがない。黙働に取り組む姿勢がすばらしい。
- * 小学校との連携により，中学校への進学に対しスムーズな接続が図れている。交流教室では愛宕中のよさを児童や保護者に分かってもらえているようだ。引き続き良さが伝わる努力をしてほしい。